

瑞浪市陶磁資料館は、昭和55年（1980年）に開館した焼き物の歴史を専門とする博物館です。東濃地方には他にも焼き物専門の博物館が多数ありますが、陶磁資料館は明治時代以降の焼き物やそれを作るための生産用具を中心に展示しています。「陶器と磁器ってどこが違うの?」、「焼き物の模様ってどうやって付けるの?」など、焼き物の歴史や生産方法の疑問にお答えしています。

また、子どもから大人まで気軽に楽しめる絵付けなどの体験教室を随時開催しており、自由に絵を描いて、思い出に残るオリジナル作品を当日お持ち帰りいただけます。



絵付け作品（マグカップやコースター）



屋外展示の水車



瀬戸黒

国登録有形民俗文化財「美濃の陶磁器生産用具及び製品」

陶磁資料館では、焼き物や生産用具の収集にも力を注いでいます。屋外展示では瑞浪市内で考案された窯業原料を砕くための用具「千本杵搗水車^{せんぼんきねづきすいしゃ}」をご覧くださいことができます。これら収蔵品の一部は、「美濃の陶磁器生産用具及び製品」として国の有形民俗文化財に登録されており、先人たちの技法や工夫を理解するための貴重な財産となっています。

郷土の人間国宝－加藤孝造

加藤孝造氏は、土岐郡瑞浪町（現在の瑞浪市）に生まれ、人間国宝（国重要無形文化財「瀬戸黒」保持者）にも認定された美濃陶芸界の泰斗でした。「加藤孝造展示室」では、瀬戸黒や志野など茶陶を中心とする陶芸作品を展示しています。



編集後記

法人会だより「新署長さんこんにちは」取材の為、正副会長と共に多治見税務署を訪問し、浅井新署長さんに独占インタビューしてきました。前任地である「下田市応援大使」と書かれた名刺をいただいたのですが、その名刺を提示すると観光名所や記念館の入場が半額になるそうです。思わず「これは下田へ行ってみたい!」という気持ちになりました。(笑)
これからも皆様に「読んで楽しい」と感じていただける会報誌づくりを目指してまいります。ご意見ご要望があれば是非お気軽にお聞かせください。今後ともよろしくお願いいたします。

広報委員長 井澤秀明

広報委員会

担当副会長	大嶽 利彰(多治見)	委員	井澤 佳憲(瑞浪)
委員長	井澤 秀明(可児)	委員	中山 研吾(瑞浪)
副委員長	伊藤健太郎(瑞浪)	委員	藤井 辰巳(可児)
副委員長	若尾 宗徳(可児)	委員	矢島 幹也(可児)
委員	田中 勝也(多治見)	委員(青年部会)	加藤 秀幸(土岐)
委員	林 浩司(多治見)	委員(青年部会)	足立 優太(土岐)
委員	河地 勝彦(多治見)	委員(女性部会)	三宅 弘花(土岐)
委員	加藤 海蔵(土岐)	委員(女性部会)	藤井 成美(土岐)
委員	林 雅弘(土岐)		